

エコロジカルカラーの調査方法—東大・小石川植物園の四季色の研究—

The Method of Research for Ecological-Color—The Study of the Four Season's Color in the KOISHIKAWA BOTANICAL GARDEN—

小林 重順 (株)日本カラーデザイン研究所 Sigenobu Kobayashi

[1] なぜ、東大理学部附属小石川植物園の、年間20回にわたるカラーリサーチを行なったのか。

a ねらい

- 1 Area-ColorとEcological-Colorとの関連を色相とトーンとそのイメージでさぐる。
- 2 Eco-ColorはPsychologicalな色に、どのような影響を与えるのか。たとえば、四季色の認知は、いかにしてなされるか。
- 3 生活の色として存在する、<市場の基本色>は、Eco-Colorと、どう関連するのか。
- 4 日本の近代植物学の初期の歴史がつくられた小石川植物園には、約4000種の植物が栽培され、ある意味では、日本の植生色の代表か、と考えられたためである。
- 5 都心にあり、しかも系時的な調査がしやすく、当園は学術研究に理解があった。

b 調査方法の発見、その手続の確立

- 1 試行錯誤のうちに、いろいろな条件を学び、そのうちに定番的な手法がうみだされると思っていた。
- 2 色票による調査はやらない。景観の立面と平面(大地)にねらいをつけ、近景、中景、遠景の花木、草や土、緑の変化の相(色相とトーン)をスライドにとり、ひとつひとつケースにまとめていく。
- 3 季節の変化に応じEco-Colorがどう変わっていくかをみるために、20地区にわけ、毎回DIN400~100で10~12本をとる。
- 4 年間を通じて朝9~12時、曇りか晴の日にした。1日の変化は無視した。
- 5 はじめは、1ヶ月ごとときめたが、春や秋の変化をいっそう詳しくとらえるために、半月単位にかえたこともある。
- 6 色相の変化の拡がり、景観色では色相RP~BGにわたり、B、PB、P、を欠く。トーンは、清色と濁色にわけていく。
- 7 花では色相B、無彩色の灰と黒を欠く。
- 8 小石川植物園の存在価値 Garden-Identityを、果して色とイメージでとらえ得たか。

[2] 研究の手続き

a 調査上のメモ

- 1 調査の日時……四季つまり4回で出発
940812夏 941115秋 950225冬 950405春
ではじめたが、雪950226を加えた。
しかし、これでは変化がとらえれないとわかり、春を950428にとり、950526、950628、950726、950829、といくが、秋になり、915、929、1018、1101、1115 と秋を追ってきたが、あまり変化しない。しかし、1129、1214、で秋→冬化する。
そこで、'96年度は1月から5月まで9~10回リサーチすることに定めた。
- 2 映像化のためのテクニック……ニコンF4、コダックDIN400~100、春~夏は9:30~12:00、秋~冬は10:00~12:30、約2時間
- 3 20区域に、植物園をわけて比べる
(I) 洪積世末6万年前の段丘丘地の照葉樹林と落葉広葉樹林を主体とした雑木林、比較的乾いた立地を好む植物がある。
①入り口、門一帯 ②本館前、シダ園前
③温室前、モミジ並木 ④桜並木一帯
⑤菜園、標本園 ⑥ツツジ園、イチョウ
⑦ボダイ樹、ユリノ木 ⑧シマサルスベリ並木
⑨カリン林、杉、ヒノキ⑩あずまや、イチョウ
(II) 河岸段丘崖10m下の低地は、小石川にけずられてできた沖積地で、ここには湧水があり池の水源が日本庭園の景観をうむ。
水生植物、湿性植物群がみられる。
⑪医学校前 ⑫日本庭園、芝生
⑬日本庭園一帯 ⑭松林、段丘崖林
⑮ウメ林東 ⑯あずまや、ウメ林西
⑰池、ミズカンナ ⑱バキ、小池
⑲ポプラとハンノキ並木⑳メタセコイア林

b 小石川植物園のIdentityのとらえ方

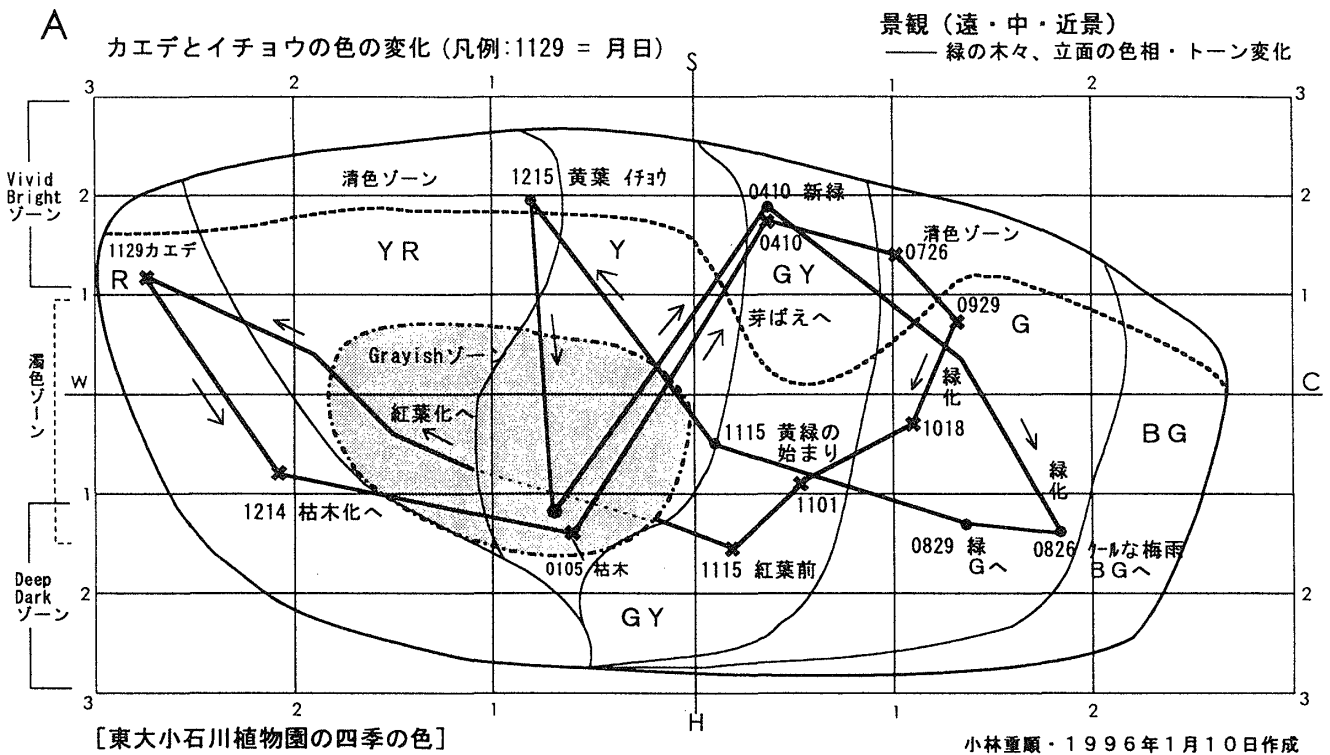
- 1 Hue & Toneシステムでまとめ、比較する
 - ・花実の色、立面・景観色、平面、大地色
 - ・時期、季節ごとに時系列にまとめる
 - ・20地区ごとに2ケースを挙げて比べる
 - ・景観色、一帯色、コーナー色、植物色にわけて、四季色の変化をみる

- 2 イメージでとらえて、比べてみる。
- ・イメージスケールにのせてみる。(写真1)
- ウォーム・クール/ソフト・ハード
- クリア・グレイッシュ/ソフト・ハード
- ・20地区の景観イメージをだす。
- 四季の変化のイメージをチェックする
- ・小石川植物園の Garden-Identity

- 3 景観のスライドを使って、多くのケースをシステム化し、そのパターンをみる。

- 4 自然の秘める配色テクニックをさぐる
- ・主に景観色を地域、コーナー、植物の色とに注目し、四季の移りゆきをさぐる。
- 色相配色&トーン配色; まとまり&きわだち
- 清色配色&濁色配色; リズム&バランス
- カラーリンケージ&基調色・強調色
- ・自然の色の変化はグラデーションか

- 5 調査方法やその活用については、'98年の日本色彩学会に発表予定である。



B 東大小石川植物園・地面の変化・落ち葉→緑地 (スライド)

	RP	R	R	YR	YR	YR	S・ソフト	Y	Y	GY	GY	G	BG	写 期 時 数
清色							↑							1・1← 2・5 3・1
濁色	951214	951214	950225	951214	951214	950929	951214	950829	940812	950915	950929	950428		3'・2 4・2 5・2
ライト	951214	951214	941115	950428	951214	950929	951101	951101	951115	950405	950929	951115		6・2 7・1 8・4
ディープ	951214	951214	950226	951129	950726	951018	950526	950726	951018	950829	950929	951115		9・3 10・2 11・4
濁色	951214	951101	950226	951214	950526	950915	950829	941115	951129	950405	950628			12・2 13・3 14・2 15・2
	C・クール ←————— W・ウォーム ←————— H・ハード —————→ C・クール												16・1 2	